

活動報告

団体名	NPO 法人レスキューストックヤード
活動名	水害後の生活再建に向けたコミュニティ支援事業
活動期間	2018年7月～2019年3月
活動の成果	<p>1. 対象者や地域にみられた変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動資器材を災害発生直後に迅速に貸与できたことで、災害ボランティアセンター立ち上げと同時に、被災者の元へボランティアを派遣するための体制が整い、結果的に多くの被災者の生活再建を早めることができた。 ・専門家が同席した相談会の開催は、被災者の漠然とした不安や疑問を解消し、先の見通しを持って再建の準備を進める足掛かりとなり、被災者の笑顔や安心感を生んだ。 ・行政・社協・外部支援者・地元支援者との「情報交換会」および、関市社協との定期的な情報交換会にアドバイザーとして参加することで、社協がその時に抱える課題や不安をタイムリーに解消できた。これまでの被災地支援の経験から、床下の泥処理の重要性を理解頂き、行政も積極的に注意喚起の呼びかけをするなど、具体的な連携が生まれた。また、地元 NPO や大学の同席も勧め、災害救援を専門としない NPO でも、復興支援に関われることをご理解頂いた。 ・相談会での食事会やサロンを通じて、「こんなに人と話したのは久しぶり」「今だから話せるけど本当に怖かった」「楽しかった」などの言葉が聞かれ、震災直後から続く緊張感の緩和や、元気や活力の回復が見られた。 ・足湯の講習会を通じて、いち被災者であった地元住民が、支援する側となり、積極的に復興支援や地域活動に関わろうとする姿が見られた。 <p>2. 活動の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の相談会に見られるように、被災地域、行政、社協、法律と建築の専門家、NPO、ボランティアが同じテーブルで課題を共有し、それぞれができる支援を持ち寄った結果、被災者の不安や困りごとを多方面から捉え、一人ひとりのあったアドバイスや支援を届けることができた。 ・RSYのネットワークを最大限に活用し、現地の情報を SNS や報告会で詳細に発信することで、「支援をしたい」と思う人を募ることができた。それに対し、資金提供、作業系労力、生活支援系労力など、具体的な支援メニューを提供し、現地コーディネーターを置いたことで、支援を求める人と支援をしたい人を効果的につなぐことができた。 ・特に発信力が弱く、支援の届きにくい山間部の集落に対し、戸別訪問や炊き出し、足湯を行うことで、被災者の生の声を詳細に把握することができ、行政や社協に繋ぐことで、支援の抜け・落ち・ムラを軽減することができた。 ・「町の復興のために何かしたいが、具体的にできることが分からない」という地元ボランティアに対し、社協と連携して足湯講習会を実施することで、当法人の取り組みが地元に残り、日常的な見守りや次の災害に向けたボランティア活動の推進につながった。 <p>3. 目標達成率と課題</p>

	申請当初に予定していた事業はほぼ実施することができた。
寄付者へのメッセージ	皆様から頂いた貴重な寄付金を活用することができたおかげで、自ら助けて欲しいと声を上げられない方々や、生活再建に向けて何から手を付けてよいか分からないと困惑する被災者の方々に、大きな安心感や笑顔をお届けすることができました。本当にありがとうございました。

